

基本施策D2 循環型社会の形成を推進します

主管課：廃棄物対策課

個別施策

- D2-1 ごみ排出量の削減とリサイクルを推進します
- D2-2 廃棄物の適正処理と処理施設の整備を進めます

ア 施策の目的

市民・事業者・行政等、すべての主体が、ごみ減量・リサイクルに対する意識を高め、循環型社会の形成に取り組んでいる。

イ 基本施策の評価

D b 目標を達成していないが、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H29	H30	R元	R2	R3
リサイクル率	15.3% (27年度)	↑ 目標値	17.0	18.0	19.0	20.0	20.0
		実績値	14.4	14.1	13.5	13.6	
		達成率	84.7%	78.3%	71.1%	68.0%	
ごみの1人1日当 たりの排出量【補 助代替指標】	1,001g (27年度)	↓ 目標値	980.0	970.0	960.0	950.0	950.0
		実績値	974.0	973.0	971.0	968.0	
		達成率	100.6%	99.7%	98.9%	98.1%	

エ 評価結果の妥当性

(1) 本部会における意見を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に対する意見

- (1) ごみの回収量を分別ごとに分かりやすく示すとよい。
- (2) ゴミの1人1日あたりの排出量の増減や全国平均と比較して多い原因を分析する必要があるのではないかな。
- (3) リサイクル率とともに、リサイクルに掛かるコストも評価していく必要がある。
- (4) 海洋ごみの減量についても記載が必要ではないかな。
- (5) リサイクル推進員が地域においてどのような役割を果たすことができているのか、具体的な業務内容を分かりやすく示してほしい。
- (6) 廃プラスチックごみ対策について、どのような検討を行っているのかも示してほしい。
- (7) フードドライブ施策に関して実施場所が少ない。連合自治会単位で場所を設定しては

どうか。

- (8) フードドライブの次の段階であるフードバンクから先において、ロスがどのようになっているか調査してみることも必要であると思われる。
- (9) コロナ禍によるごみの変容といった様々な変化に対する対策や、その啓発の方法については、今まで通りでは難しいということを念頭に置き、より市民が取り組みやすいごみのリサイクルの推進を考える必要がある。また、ごみ出し曜日の見直しやごみステーションの改良も考える必要があるのではないか。
- (10) 不法投棄については、情報を収集し、監視カメラの設置箇所を増やすなどの対応を進めていく必要がある。

カ 審議会における施策推進に向けた提言

- (1) 隣接する自治体と分別の方法が異なっているのはわかりにくい。
- (2) モノの購入・消費によって廃棄物が生じるので、市民と小売り等の事業者がともに連携して取り組めるような施策の検討が必要である。
- (3) リサイクル推進員が地域によって活況に差異があるようなので、見直しを図る時期であると考えられる。また、コロナ禍においてリサイクル推進員の活動は厳しい状況があるので、個々人の意識変容を図る仕組みや仕掛けをする必要があると思われる。
- (4) リサイクル推進員の皆さんの熱心な活動について、広報ながさきや週刊あじさいでインタビュー等をしてみてはどうか。
- (5) フードドライブへ食品を提供される方々は、こども食堂の取組みを知ることがきっかけでフードドライブへ参加されているようである。貧困やこども問題の施策とも積極的に連携した施策の推進を望む。
- (6) 現在、事業者レベルで、災害に備えた非常食の消費期限による入れ替えに際し、フードドライブへの提供が行われている。今後、個人レベルでも災害に備えた非常食のストックが増加すると考えられるので、災害対応ストックとロスを関係づけた形で普及啓発が行われるとよいのではないか。
- (7) マットレスの様に他にもリサイクル可能なものはないか。例えば、壊れた傘など資源としてリサイクルする方法はないのかと考えており、ストックヤードの新しい資源物回収として検討できないか。